

HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)

危害分析・重要管理点と訳され、一般に「ハセップ」と発音します。食品の安全性確保のため、製造過程で発生する可能性のある衛生・品質上の危険性を分析し、監視すべき重要管理点を定め、厳格に管理・記録を行う手法です。

SCM (Supply Chain Management)

原材料や部品の供給から組立、検査、販売、物流までのプロセス全体(サプライチェーン)を的確に把握し、各部門において経営指標に基づく全体最適化のための意思決定をしようとする考え方です。SCMを実現するためには、販売、生産、在庫などの情報をリアルタイムに把握し、部門間や企業間で情報を迅速に伝達し、そのうえで、的確な計画立案と実行をしていくことが必要です。

MES (Manufacturing Execution System)

製造実行システムと訳され、受注から出荷までの生産工程の最適化を促進するための情報の管理を行い、これらの情報により、工場での作業の指示を出し、その結果の報告を行います。また、リアルタイムに変化する情報の収集とそれに対応した指示を出すことにより、効率的な工場の業務とプロセスを導きます。MESは、一般に、POP(Point of Production:生産時点情報)管理機能と合わせて、工程管理、現物管理、品質管理、製造指示、進捗(ちよく)管理、工場内物流管理、生産設備制御、保守管理などの各種の生産支援・管理を行う機能を備えています。

コンティンジェンシープラン (Contingency Plan)

危機管理計画のことで、偶発事故や不測の事態による影響を事前に想定し、代替措置などを明確に定めることで、トラブル発生による影響を最小限にとどめ、当初の機能を迅速に復旧するための復旧計画を策定します。近年、国家プロジェクトや民間事業、社会システムなど幅広い分野で、このような計画の策定が求められています。

RFID (Radio-Frequency Identification)

電波を用いて非接触でデータキャリアを認識する個体認識技術を指し、メモリなどのICチップとアンテナから構成されています。

ムーチップ

日立製作所が開発した超小型のRFIDで、(1)薄型・超小型ICチップ、(2)高い真正性保証機能、および(3)非接触通信を特徴としています。大きさは0.4×0.4(mm)で、製造時にムーID(Identification)というデータを作成し、128ビットのID番号を製造段階で符番します。このIDには同じ

ものは存在せず、これによって改ざん防止を図っています。

トレーサビリティ (Traceability)

物を製造、販売する中で、原材料の出所や製造元、生産元を追跡できる仕組みのことで、特に食品業界で注目を浴びています。食品の場合では、原材料の出所や製造元、販売先などの記録を記帳、保管し、食品の履歴とその情報とを追跡できるようにすることで、栽培・飼育から加工、製造、流通などの過程を明確にし、食品の安全を確保するための仕組み・システムのことを指します。

フィージビリティスタディ (Feasibility Study)

企業におけるビジネスの採算性の調査や検討をする実行可能性調査、または、その結果のことを言います。

O-157

O-157は、腸管出血性大腸菌の一種で、毒素によって出血性腸炎を起こすことから、正式には「腸管出血性大腸菌O-157」と呼ばれています。大腸菌は家畜や人の腸内にも存在しますが、ほとんどのものは無害です。このうち幾つかのものは、人に下痢などの消化器症状や合併症を起こすことがあり、病原大腸菌と呼ばれています。

BSE (Bovine Spongiform Encephalopathy)

日本名では牛海綿状脳症と言います。ウシの感染性疾患の一つで、脳に障害を来し、行動異常や運動失調などの後、死に至ることがあります。病原体はタンパク質の一種である異常型プリオンと考えられており、1986年にイギリスで発見されて以来、ヨーロッパ各国で発症が確認され、わが国でも2001年に発症が確認されています。感染したウシの肉骨粉を含む飼料によって感染が広がったと考えられています。

GMO (Genetically Modified Organism)

遺伝子組み換え作物のことで、遺伝子組み換え技術により、除草剤への耐性や害虫への抵抗性などの性質を付与できますが、安全性や環境への影響の懸念から、わが国での商業栽培は行われていません。

アレルゲン (Allergen)

アレルギーを引き起こす原因となる抗原性物質のことです。花粉、ちり、ダニの死骸(がい)、ホルムアルデヒドや動物の毛など吸入性のものから、魚肉・鶏卵・牛乳など食物性のもの、金属、ゴムなど接触性のものなどさまざまなものがあり、確認されているものだけで200種類近くあります。

3PL (Third Party Logistics)

商品の輸送や保管だけでなく、商品の受発注や荷役、流通加工、在庫管理など物流業務を荷主から受託するサービスです。最近では、物流アウトソーシング(外部委託)として、物流センターの建屋の用意から庫内作業員の調達、管理システムの構築と、顧客のコア事業以外の物流業務を一括して受託するサービスも注目されています。

マテハン

マテリアルハンドリング(Material Handling)を略した言い方です。原材料・製品・部材などの運搬・管理を効率的に行うための技術や方法のことで、自動倉庫や昇降機、コンベヤから台車などの搬送機などのことも含みます。

モーダルシフト (Modal Shift)

輸送手段(モード)を転換(シフト)することです。主として陸上貨物輸送におけるトラックへの依存から船舶や鉄道の活用への切換のことを言い、輸送の効率化や排ガス規制など環境問題への対応を目的としています。

ITS (Intelligent Transport Systems)

高度道路交通システムと訳され、道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上などを目的に、最先端の情報通信技術などを用いて人と道路と自動車を一体のシステムとして構築する、新しい道路交通システムの総称です。

DPS/DAS

DPSはDigital Picking Systemの略で、指示された数量の商品をランプが点灯した棚から集荷することにより、ピッキング(集荷)の効率向上と誤り防止を実現するシステムです。

DASはDigital Assorting Systemの略で、DPSと同様に、指示された数量の商品を仕分け(Assort)するシステムです。

MOCS (Mobile Operation Control System)

警察庁が運用する、新交通管理システムの1サブシステムで、道路に設置された光ビーコンと車載端末の組合せから成ります。交通渋滞などのリアルタイム交通情報は民間業者も人・物流の効率化に活用できます。

VICSセンター

VICSはVehicle Information and Communication Systemの略で、VICSセンターは、財団法人日本道路交通情報センターが運営する、渋滞などの道路交通情報を

提供する組織です。

日立交通情報サーバ

VICS情報や、走行中の個々の自動車の速度・位置などに関する「プローブ情報」と呼ばれる精査した情報を収集、蓄積、加工し、交通に関するさまざまな情報をサービス提供する、日立グループが運営するサーバです。

ブレードサーバ (Blade Server)

薄く細長い1枚の基板上にCPU(Central Processing Unit)、メモリ、ディスクなどを搭載したブレード(「刃」の意)を必要枚数接続して構成したサーバです。一つの筐(きょう)体に多数のサーバを搭載できることから、集約性と保守性が高いなどのシステムメリットに加え、物流管理システムでは、荷主単位での管理、拡張ができるなどの特徴があります。

MRO (Maintenance, Repair, and Operations)

オフィスや製造現場で日々購入する消耗品、作業用品や機械部品などのことを言います。これらは、一企業では不定期かつ小ロットの発注になるのが一般的なため、業務の効率化、省力化やコストダウンが難しいアイテムでしたが、近年のインターネットでの企業間電子商取引の発達により、煩雑な購買業務にかかる人員コストと時間の削減、スケールメリットによる継続的コストダウンを実現するアウトソーシング(外部委託)サービスが提供されています。

XML (Extensible Markup Language)

インターネット用に最適化された文書構造の記述言語のことです。主に電子的な文書管理とデータ交換に用いられます。

IP-VPN (Internet Protocol-Virtual Private Network)

日本電信電話株式会社(NTT)などの通信事業者が保有する広域IP(Internet Protocol)通信網を経由して構築される仮想私設通信網(VPN)のことを指します。IP-VPNを経由することにより、遠隔地のネットワークどうしを、LAN(Local Area Network: 企業内情報通信網)で接続しているのと同じように仮想的に運用することができます。